

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	0772700258		
法人名	社会福祉法人 千桜会		
事業所名	認知症対応型共同生活事業所 ゆいの家		
所在地	福島県大沼郡会津美里町高田道上 2 9 7 3 - 2 (電 話) 0242-54-6733		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮 1 1 1 番地		
訪問調査日	H20.3.25	評価確定日	H20.4.28

【情報提供票より】(20年2月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 5人, 非常勤 1人, 常勤換算5.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	2 階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,450 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要(2月 16日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護 1	2 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	2 名	要介護 4	1 名		
要介護 5		要支援 2			
年齢	平均 85 歳	最低	78 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	会津西病院、高田厚生病院、大塩訪問歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は利用者の住みなれた地域の中で、その人らしい暮らしが続けられるように配慮している。町内会加入がきっかけとなり、回覧版を交互に届けあったり、町民運動会に参加する等、近隣住民と触れあう機会が増えている。また、馴染みの人との関係や家族の繋がりも大切に考え、利用者と一緒に自宅訪問をしたり、知人宅にお茶飲みに行ったり、公民館サークル活動の参加等、利用者の状況にあわせて、家族や地域社会との関係継続を大切に支援している。さらに、側面より応援してくれているボランティアの方々の協力で、パン作りや、そば打ち、パッチワークの製作をしており、個々の趣味や今まで培ってきた経験が暮らしの中に活かされている。利用者一人ひとりの力が発揮できる場面や、いろいろな方々との交流を通して利用者の活気につながっており、表情は明るく、穏やかに暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の結果を踏まえ、要改善13項目について出来るところから改善に取り組んでいる。「地域とのつきあい」は町内会に加入し、利用者と一緒に回覧版を届けたり、町の運動会や公民館のサークル活動に参加し、近隣住民と交流する機会が増えた。「職員の異動による影響」は、さらに職員の異動を極力最小限に抑える検討をしてほしい。今後さらにサービスの質の向上を目指し、継続して改善に取り組んで行ってほしい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員(専任と兼務の併設施設のデイサービス職員)が記入し管理者が取りまとめた。自己評価を行うことで日々のサービスの振り返りになり勉強になったという職員が多い。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、ホームの生活状況報告をもとに質問や意見を受け話し合っている。委員である区長の協力で町内会に加入し、地域住民との交流の機会が増えた。また委員にホームの行事にボランティアとして参加してもらい、利用者と一緒に触れあうことで、ホームの理解と支援を得る機会にもなり、運営推進会議が効果的にホームの運営に活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホームの玄関には「目安箱(意見箱)」を設置し、苦情や要望を気軽に伝えてもらえるようにしている。さらに、家族の要望で安全面を優先し、2階部分(階段を上りきった箇所)に柵を取り付けた経緯がある。(柵は夜間時のみ使用)
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、利用者と一緒に回覧版を隣近所に届けたり、町の運動会や公民館のサークル活動に参加するなど、日常の生活場面で地域住民と交流する機会が増えている。町主催の文化祭には利用者が共同製作したパッチワークを出品している。さらに定期的にボランティアの人達が、パン作りやパッチワークの指導、そば打ちをするためにホームを訪れ、地域の人達と触れあう機会が多くある。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体のこれまでの理念を見直し、「地域住民との交流の中でその人らしい人生を歩んで頂くよう支える」というホームの理念を全職員で作った。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について月1回の会議で話し合っている。また、職員は理念が記載されたネームプレートを業務に従事する際には必ず身に着けることで、理念の意識付けと共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、利用者と一緒に回覧版を隣の家に持って行ったり、町の運動会や公民館のサークル活動、町の文化祭に作品(パッチワーク)を出品するなど、地元の人達との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員(専任とデイサービス兼務職員)が記入し、管理者が取りまとめた。前回の要改善項目はできるところから改善に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、非常勤やパート職員にもスタッフの一員として自己評価を行ってもらい、他の職員と共に、日頃の業務の関わりや見直しの機会にしてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、ホームの生活状況報告をもとに質問や意見を受け、話し合っている。参加メンバーの協力でホームの理解や支援を得る機会になり、効果的にホームの運営に活かされている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族へは毎月利用者一人ひとりの暮らしぶりを書き添えたゆいの家便りと一緒に、金銭出納報告書も送付している。職員の異動はゆいの家便りに掲載し家族へ伝えている。状態変化や薬が変わった時等は、その都度家族に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情等を気軽に伝えてもらえるように玄関に目安箱（意見箱）を設置したり、面会や行事参加時を利用して、家族等から話しを聞いている。家族から転落防止のために、2階（階段を上りきった箇所）へ柵を取り付けてほしいという要望を受け、法人と検討した結果、安全面を考慮して柵を取りつけた経緯がある。（柵は夜間時のみ）		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体の人事異動により、ホーム職員の異動がある。さらに併設のデイサービス職員がホーム職員と兼務し、夜勤と日勤帯にホームで仕事をしている。異動の際は業務引き継ぎや利用者の関係づくりに配慮している。	○	職員が利用者や家族と馴染みの関係を作り、継続的な生活支援を行うことが大切なので、ホーム職員の異動は極力避けるよう見直しの検討をしてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、法人の在宅部門の専門委員会にそれぞれ所属し月1回出席している。外部研修は、主にグループホーム連絡協議会に交替で出席し、報告の機会を作っている。	○	非常勤職員も含めて経験や力量に応じて、研修が受けられるように検討してほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に交替で参加し、同じ地域のホームと情報交換を行っている。地域のホームとひなまつり食事会を開催するなど交流を図りながら、ホームのケアサービスの質の向上を目指している。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、季節のならわしや料理等を教えてもらったり、生活を共に過ごすなかで、管理者を「お母さん」と呼ぶ利用者もいるなど、不安や楽しみ、喜び、笑いを共有し、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの動きや表情、言葉から何をしたいかや体調の変化を汲み取り、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を立てる前に、家族にも会議に出席してもらい、思いや意見を聞き計画に反映させるようにしている。介護内容の評価を含め、時間をかけて意見交換を行い介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎朝の申し送り時には利用者の情報を交換している。状態変化に応じてその都度話し合いを持ち、随時の見直しと設定した期間ごとの見直しと確認を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院介助は原則として家族同行になっているが、家族の都合等で職員が代行することが多い。受診報告はその都度行い、利用者の状態変化や薬が変わった時は、家族が直接医師の説明を受けるように支援するなど、柔軟に対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時にホームの対応について、利用者や家族に説明を行い同意を得ている。また、かかりつけ医に対し、重度化や終末期に関する家族の意向について説明を行っている。職員は、ホームで対応できる支援方法を踏まえ、できる事できない事を話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導、失禁時の対応等、なるべく他の利用者に気づかれないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。個人の記録は所定の場所に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの暮らしを大切に、指示や押しつけはしないで、その時の気持ちを大切にしている。職員と一緒に自宅訪問や趣味の PATCHワークをしたり、洗濯物たたみ、散歩などその人らしく過ごせるように柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食材の買物、調理、盛り付け、片付けを職員と一緒にやっている。食事は同じテーブルで職員と利用者が共に食事をし、楽しい雰囲気づくりに心がけている。利用者の誕生日には外食に行くこともある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制があり利用者の希望やその日の体調にあわせ支援している。季節によって柚子湯や菖蒲湯にする等工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	日々の暮らしの中で一人ひとりの楽しみや役割を見出し出番を作っている。居室や共用スペースの掃除は日課になっている。生活歴や得意な事を見つけ、その人にあったことをしてもらい、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買物、散歩、自宅や知人のお宅訪問、地域の公民館に趣味のサークルに参加する等、個々にあわせた楽しみや外出の機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵はかけない、利用者が外に出て行きそうな雰囲気を察知したら、すぐに止めることはしないで、さりげなく声をかけたり、一緒に散歩してくるなど、自由な暮らしを支えるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>非常災害対応マニュアルを作成している。法人と近隣住民による自衛消防隊の協力のもと、ゆいの家消防訓練年次計画に基づいて定期的に避難訓練を行っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は併設施設の栄養士にチェックしてもらい、一人ひとりの食事量や水分量を記録している。嫌いな物リストを作成し、献立によって食材を変えたり、野菜の嫌いな人や水分量の少ない人には野菜ジュースを摂取してもらうなど個別に支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用スペースは仕切りがなく、居間、畳敷コーナー、台所、事務室は一体化している。会話や生活音は自然に生活に溶け込み生活感がある。日射しはカーテンで調節し、換気は適宜行っている。装飾も季節感のある物を配置し、居心地よく過ごせるように配慮している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、ほうきやちり取りがさりげなく置いてあったり、写真や身の回りの品物が持ち込まれ、利用者の居心地よく過ごせるよう配慮している。</p>		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 認知症対応型共同生活事業所 ゆいの家

記入担当者名 児島 幸子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。

事業所名:認知症対応型共同生活事業所 ゆいの家
評価確定日:平成20年4月28日

評価機関:社会福祉法人 福島県社会福祉協議会